京城新報

●新聞料　▲一部二錢▲前金一ヶ月金廿五錢●三ヶ月前金七拾錢▲六ヶ月前金壹圓▲郵税一月金拾參錢
●廣告料　▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰暦　十二月廿九日
發行編輯兼印刷人　山下英爾
京城西署西小門通
發行所　京城新報社
電話六六三

新疆旅行記（七）

王城の大門に通ずる外庭の南隅に建てられたる物見櫓の開き放てる頂上に數人の見張ありて内閉の門番に信號を與へたりしに門番は直ちに吾等に其用向を問へり、彼は立派なる容貌の男にて男子の標本とも云ふべきものなりき、加之吾等が此處にて逢へりし土耳古人は大抵皆立派なる容貌のみにて亞細亞人としては珍しくも優美に且つ容姿端麗なる種族なり、殊に吾等の最も感せしは其鮮かにして紅を帶べる顔色にして十五歳までの兒童の如きは其顔恰も夭々たる桃花の如く鮮麗にして且つ紅なり。

此端麗なる門番は内庭を通り拔けチ－字形の高き客室へ吾等を案内せり此室の垂直にして狹き方の一翼は直角に他方と續けるが中に樂人及舞人の爲めに設けたる高壇を据ゑたり、王は吾等に會はんが爲め内室より小室の入口に來り其兩手を以て余の右手を捉へ之を其絹衣の上より胸に壓せり此挨拶振は余が心を靜めたるものなりき、余は彼の手が歐洲の貴族のそれの如く白く且つ鮮かなるを見たり去れど吾等の驚きしは彼の支那服を着せることなり城外にて見たりし回教徒は全く風異りの衣服を着し且羅馬加特利克教の僧正の戴く制帽に似たる高き四角の頭巾を被り其頭髮も亦短く刈れり然るに王及其侍從は全く支那式の服裝をなせり吾等は導かれて長椅子に座せしが王は肱掛椅子に座し五人の侍從は盛裝して恭しく王の背後に起てり頓て茶の運ばるゝや王は美しき白の角砂糖を盛れる二の盆を取り之を銀の匙にて溢るゝ計り吾等の茶碗に滿たし更に匙にて茶と混和せしめて勸めらるる其實少許なる茶を混せる砂糖水なりき、王は支那服を着し支那の禮儀を守ると雖も官話の智識甚だ乏しく通譯を呼ばざるべからざる程なりき、楊君は王の最も熟せる言語は土耳古語ならんと言へりしが若し土耳古語が「チュラン」中及東土耳古斯坦の此等の地方に於て實際に行はるゝものとせば彼の言は正當なりと雖も若し然らずとせば王の熟知せる言語は「チュラン」語ならざるべからず彼の小亞細亞に行はるゝ土耳古語よりも寧ろ却て露西亞語や波斯語の方親しかるべき筈なり吾等は王に吾等の來意を語りたる後王の寫眞を撮ることを許さるゝや否やを尋ねたるに王は余は回敎徒にして余の宗教は撮影を許さずと言ひて之を拒みたりしが城外より王城の早取寫眞を撮ることをば許されたり、別に臨み彼は再び余の右手を取り之を胸上に壓せり而して王は内庭の入口に至る迄余等と伴び其侍從は彼に續けり、内庭の外側にて吾等は相互に最後の禮を交し吾等は市街に下り王は其城中に退かれたり

東宮御所御構造（續）

書房の裝飾は全部書籍の表裝を象り四圍の書庫、樓上樓下に分れ床上中央の御卓には綠色の鹿革を張り、前後の別室には新聞雜誌をも閲む設備あり天井は色硝子もて自在に光線を導けり

球戯室より舞踏室に入れば寄木張りの床は鏡を磨がき壁は百花爛熳たる模樣の織物、天井の油繪は高壁の四邊にて立てる煙突よりそれ〴〵異色の煙を吐きて五雲天を彩れる光景を描き其四邊には電燈裝飾をさへ施したるさへあるにサンデリヤ水晶の珠簾條更に天井より垂れて魔光滿室に輝き渡れり右手窓寄りの中程に玉座、其左右は皇族の御椅子を据ゑ突當りの壁の間に高く音樂室を吊りたる洵に驚かるべき裝置なり誠に是れ霓裳上の歌舞の行はるべき處裝飾の美は素より人間の筆の及ぶべき所にあらず

舞踏室外の奥廊下を横れば既に記せし妃殿下の御學間所にして左へ西一の間、二の間三の間となるなり先きに拜したる皇太子殿下の御學間所に比すれば彼は濃艶にして此は清淡、壁柱多く金色を用ひず而かも御書棚御用卓など皆葡萄の木もて作られ精巧なる木彫細工を以て裝飾しあり御椅子の薄桃色の織物もて張られたる亦た瀟洒の趣き深く拜せられぬ西三の間の壁畫は東三の間のものと相對して彼は油繪、此は日本畫の牡丹に孔雀の圖をば西陣の織物に仕立てたるもの亦た濃淡互に相發するの妙を得たりとも申さんか、是にて全く階上を拜し終れり

階下は裝飾猶ほ未だ竣りを告げず先づ大階段下より大理石モザイックもて張られたる表廻廊の花模樣を踏みつゝ肅々として大理石柱の間を過ぎ縱室かの豫備室、客室、寢室等を經て先づ妃殿下御化粧の間、御内房、御衣庫、御湯殿、御寢室等を拜す總て裝飾取付中なれば其詳細を知るに由なし御化粧の間の油繪は故淺井畫伯が渡部審也氏と共に丹精を凝したる群燕の圖にて現に張込まれてあり、仰げば彌生の空長閑かに霞わたれる心地あり御居間の御椅子は金華山織もて張られたり

皇太子殿下の御居間も妃殿下のと大差なく入口は樂器を浮出させたる裝飾あり扉を排すれば草色の絨氈軟かに御椅子數脚洋繻子もて張られたり

續て御内房、御衣庫、御湯殿等皆妃殿下御用の御室と大差なし御化粧の間の天井には前記兩氏筆の雁の圖を油繪を仰ぐ、皇太子殿下御常用の東御車寄は公式御玄關の規模の稍や小なるものにて鐵線製鐵屏青銅金象嵌の御紋章、大理石柱、純白大理石の床、その御階前に記せるものと相同じ西御車寄は亦た東御車寄と異なることとなし

地下室は重に機械室にして蒸汽室、換氣室廚房等あり無數の電線、水道線、換氣筒など天井を通じ廚房の設備は最も嶄新の式に依り煤烟の如き竈の下方に通じて煙突に逸し去る裝置となり居れり

東宮御所の御構造は大略右の如く其當代文明の粹を鍾め東西技工の能を盡せることは申す迄もなく一房一室皆其美を有し一器一具皆其善を盡せるのみならず地下室の裝置によりて各室濕度を異にすることさへ自在なりと云ふ洵に日本始ての大建築大美術と申し稱へまつるべきのみ（完）

火災保險率（下）

然り其の昂騰は餘りに突飛なる誹りを免るゝを得ずされば契約者は大に驚きて更に契約の繼續を躊躇する者あり新契約者亦頗る少しと聞くさもある可き事なり然れども吾人は其保險率が果して正當以上なりや否やは知る所にあらず只從來の行動が如何にも無定見らしく見ゆて協定率引上も亦餘りに突飛なるを以て不安心を感ずるなり何をか無定見と云ふ昨年五月以前は姑く措て問はざる可し五月に最低率を協定する際には十分なる研究を遂げ自己の營業としても相當の利益あり社會一般の爲に謀りても不當ならざる率を選びたる筈なり然るに僅々半歳に過ぎずして其の二倍に引上ぐるとは何事ぞや若し先きの協定率は過低に失し到底營業を維持する能はずとの確實なる計算に出でしとせば吾人は單に其の過去の無定見を責むるに止めて將來に關しては大に同情を寄するに躊躇せざる可きも不幸にして吾人は此の引上にも確實なる根據ありて然りしを認むる能はず只一時偶然起りたる函館の大火に驚愕せる餘りに出でたるに非ずやとの形跡あり夫れ社會に火災あるは豫期す可き事なり既に火災ある以上は大火ある可きも亦豫じめ期す可き事なり何となれば火災保險は火災あるを豫期するが爲に起れる事業なればなり火災あるを豫期する事業にして、火災ありたるに愕きて舉措を失すとは矛盾も又甚だしからずや

是に於てか知る當業者の事業は確實なる基礎の上に立たざりしを只大火なかる可きを僥倖して遺利を博せんと欲せしに過ぎざりしを果して然らば是れ一種の賭博なり眞面目なる實業と云ふを得ず斯くの如くにして其の前途や頗る暗澹たり蓋し確實なる基礎の上に立たざる事業の進歩發達を望むは極めて困難なる可ければなり

斯業界の樂觀者は曰く設令其の保險契約額を半減とするも會社の收受する保險料は大差なく其の責任を減ずる點に於て從前よりも利益なる可しと然れども吾人の見を以てすれば是れ皮相の見なり保險料は從前と異りなきも其の保險目的物の危險程度は從前と異るなきを得るか蓋し契約者にして從前の二倍なる高價を拂ひて尚保險の契約を爲さんとするものは其の危險の程度大なりと思惟せらるゝ者多きを思はざる可からず樂觀者の言未だ必ずしも信憑するに足らずと云ふ可し夫の紡績業者聯合して紡績保險會社を設立せんとすとの議は早くより行はるゝ所なり更に今又京阪神倉庫業者は聯合して自己の保險會社を作らんかと云ふ者ありと聞く蓋し現在保險會社の遣り口定見なくして安心して是れに信頼するに足らざるを思ふが故なり思ふに京阪神の倉庫より各火災保險會社の收受する保險率は年に二十萬圓あり斯業に取りて必ずしも輕蔑す可き華客に非る可し

吾人の見地よりすれば一意社會の發達を希ふ故に吾人は現在當業諸氏が十分に火災保險なる者の性質を稽へ又其の社會上商業上に於ける地位を究め愼重の態度を以て極めて眞面目に經營せん事を望むものなり何となれば今紡績業者倉庫業者にして新に保險を始むるも不慣れの事業とて到底完全なるを期す可からざればなり

ステッセル裁判（三）

有史以來の大審問▲露國陸軍の内幕▲日露戰爭最後の悲劇▲旅順要塞開城事件

▲ツレチャコフ少將の證言

クロパトキン將軍の後、金州を防禦したる前第五聯隊長ツレチャコフ少將立ちて證言せり。其證言は曖昧不定にして頗る明瞭を缺きたり。加ふるに彼れが今日の證言は、豫審の際の證言と大に異れり、是れを以て其の證言は殆ど聞わず、判士長初め、判士、檢事、辯護人は同一の戰闘狀況に就て幾度かツレチャコフに反問するの止むを得ざりき。之が爲め殆ど三時間を要したり。

ツレチャコフ少將の證言を綜合して吾人は次の如き推論に到達するを得べし。防禦線の延長は八露里に及び、一聯隊の戰闘力と比して餘りに大なるに過ぎたり。而してツレチャコフの權内に於ける豫備軍は極めて不足なりき。而もツレチャコフ少將は陣地の運命に對しては殊更に慮へざりき。蓋し陣地の背後には強勁なる豫備軍の控へ居るを知りたればなり。最初ツレチャコフは敵の上陸地點の明かならざりし爲其の聯隊の孤立的位地を危險なるものと思惟したり。蓋し敵軍は配備せられたる聯隊の背後にも上陸し得可ければなり。然るに敵の上陸地點が金州以北と定まりし時、ツレチャコフ少將は、金州陣地の防禦が唯最も頑強なる方法に依りて始めて爲し得らるべきことを確信するに至れり。金州戰闘は數日の間に漸を追うて發展したり。戰闘開始前迄ツレチャコフ少將はステッセル將軍より最後の呼吸迄陣地を防禦すべしてふ絶對命令を受領したり。後戰闘最中にも、辯護人の説明せしが如く、同一の命令はフォーク將軍よりツレチャコフに與へられたり。

ツレチャコフ少將の語る所に據れば金州の最初の陣地は千九百年清國内亂の際に固められたり。其の堡壘は千九百四年コンドラチンコ將軍の命に依り、シュワルツ一等大尉の助力を得てツレチャコフ自身にて築かれたり。陣地の堡壘に於ける或る改良、例へば狙擊隊の障壁の如きはフォーク將軍の命令に依りて行はれたり。戰闘の始まると共に、敵の砲兵の盛んなる勢ひを示せし時我が砲兵は沈默し、損失は益增加したりツレチャコフ少將は幾度か援兵の派遣を求めしも、其の援兵は僅かに二個中隊に過ぎざりき。

ツレチャコフ少將の言に據れば、彼れは最初個人々々の退却を認めしが、後には早や全軍の退却するを認めたり。彼れは最初襦袢を着たる義勇兵の退却を認めしが、後には退却軍の中に正服を着したる下士の群れるを認めたり。是等の下士の中には第五聯隊に屬したるもありき。ツレチャコフ少將は援兵を派遣し、且自ら其の場に驅着けて退却を喰ひ止めんと試みたれども効なかりき。何となれば、早くも全軍舉つて退却したればなり。加之、彼れの退却中止の要求に對し、兵員は諸所より呼ばりて「我等は退却の命令に接したり」と答へたり全體より言へば、第五聯隊の退却は不規律に陷らず其の南關嶺に入るや軍樂を奏して退却ながらも其の整然たる舉動は人々に勇壯なる感覺を與へたり

文苑

佳羅丹之殘　玉井南軒

○山家新年
新らしき年の朝の山里はたゞ靜なるものにざりける

○新年松
君が代を松にくらべて千萬の年を重ねん色ぞめでたき

○ある歳旅宿に新年を迎へて
一歳を重ぬ夢とはれもはへず一夜計の旅の假宿

○故郷新年
故里の父に見へてゆたけくも今歳も今日を迎ふ嬉しさ
竹馬の友と集いて故里に今年も迎ふ年の一ふし

○新年鶴
住の江の神の御庭の田鶴の音に歳改まる心地社壽禮
たまちはふ神のみ庭の夫婦鶴歳の朝は何謳ふらむ

小説　紋のみだれ（六十）　永井櫻園

爲吉が念を推してる所へ、折も折とも女房おふでが一枚の葉書を持つて來て、

「山田さん、松岡さんからお葉書が參りました。」

と、手に渡した。山田は取つて讀み了ると

「こりや困りましたね、今日往く意で居つた所が、少し腹痛で來られないと云ふ斷書状なんです。」

と、當惑さうに云つて溜息を吐く。するとおふでは爲吉に向ひ

「頂けないんですか。」

と、低聲に聞く、爲吉は其には答へないで

「それじや、迚も今日の間には合はないのですね。」

「この書面じや迚も今日と云ふ理には行かないやうです。」

「では、私のほうが誠に困るのです、實は今日は必ず頂けるものだと思つて、借てある家へ返す約束して居りますので、もう今にも取に來るだらうと思つて居りますからどうか御都合して頂きたいものです、お金子で御都合がお惡いと仰やるなら、無理にお金子でなくても、何でも宜しうございます。」

と、其品を渡せと云はぬばかり、枕頭にある二十形の時計に目を注いで居る。

「そりやあ御道理の事ですが、しかし品物と云つても、恥を話さねば理が分らないですが、先月お渡した三十圓も、持つてた衣類を殘らず典物して差上げた始末でもうお金子になるやうな品は、この時計より外にないのです、ところが此時計は亡くなつた父の紀念に貰つたので、いくら窮してもこればかりは、質にも入れられなければ、賣る事も能ないのです、那樣事をしては亡くなつた父に申譯がありませんからね、斯う云ふ理ですから、誠に申譯がありませんがどうぞ松岡の來るまで待て下さいませんか然したらどうにかなるだらうと思ひますから……」

と、漸く一時の猶豫を頼むだ、聽容れて下れると思ひの外、爲吉は一膝乘り出して、

「けれども、此間も申上げた通り、お貸し申すと云ふ事は、手前共では家憲として禁さん事になつて居ります、のみならず此金を的に借た金を返す約束が致てございますので、若も其金を返さなきやあ、二箇月分の利子を取られるような事になりますので此上お待ち申す理には行かないんでございます、では失禮ですが斯うなすつて下さいませんか、兎も角其の時計を一時私にお預け下すつて、明日にも松岡さんが金子を持つてお越になれば直にお返し申す事に…」

山田は、其無禮を怒りながらも、猶も辭儀しく、

「これは今も云ふ通り、父の紀念の品で、晝夜放さず持つて居るので、萬一此品を他人に渡すやうな事があれば、眞箇父に申譯がありませんから、どうぞながくとは言ません、松岡のくるまで待て下い。」

「では、時計が可厭なら、何か外の品でも宜しうございます、どうあつてもお待ち申す事は能ません。」

まつまたないの問答中、室外に立つて樣子を立聞兩人の女があつたが、堪かねたか、

「そのお金子は、私からお拂ひ申します。」

と、襖を開けて入つてきた、おどろきながら誰かと見れば十七八の慄とする程の美人である。

京城新報

小さき改善

停車場の名稱を日本文字に改變し、市街の町名を日本文字に改稱し、東京時刻を京城時刻と爲し、何事に付けても小さき事件を擴張り成功したがるは日本外交の大に成功せざる所以也。

今や韓國人民は多數の日本官吏を雇聘したるを見て、彼等は文明の事務、改善の教師を迎へたりと爲さずして、却つて以て日本の國權擴張を防衛するの口實となし、恰かも厄介物の押入を迎ふるの心底を表示せり、小面惡きは韓人なり、彼等は依然として保護國民たるを自覺せざるなり。

地方の改革

地方政治改革の主張は漸く我當局者をして醒覺せしめつゝあり。韓の富を拓き、韓の文化を指導し、韓國拓殖の基礎は、速かに地方制度を改革し、地方分權の制を立て、餘りある人材を地方に置くに在り、中央政權の眼前にして累々たる奏一奏三の人材を空しく遊食せしむるは國家經濟の原理に背くの仕方なり。一言すれば大綱立たずして枝葉已に繁茂し文物是れ急にして實利は是れ遲々たり、對韓政策の改變動搖今より幾度か起らん。

大連及び釜山

大連は全滿洲の海門たる能はずして南滿洲の關門たるべく期待せられたりしが、是すら今や營口に奪はれ、僅かに豆大金州半島の海口となりぬ、斯くの如くんば帝國の大陸發展は唯だ一の釜山あるのみ。

釜山港をして世界の港灣たらしむるは滿韓連絡の企劃如何によりて決せらる、今の對韓政策中には未だ曾て世界政策あるを聞かざるなり、實に心細きは當代の對韓經營なりとす。

黄海及日本海

日本海の海上權及び利權の四分の三は我帝國に在り、然かも日本海は世界の大洋中尤も寂寞なる海洋たり、樺太の水產、ウラジオストックの貿易、裏日本との交通、ウスリ及韓北の開拓、是れ日本海の進歩也、繁榮也、韓國は之を黄海に通じ、之を連絡し之を利用して國力爲めに發展すべし。

東京電報

▲芝離宮の賜餐

韓國宮內大臣李允用氏本日午後六時新橋發歸國に付本日田中宮相勅を奉じて芝離宮に於て御賜餐あり有栖川宮殿下以下の出席ありて田中宮相の挨拶李宮相の答辭あり午後一時半散會せり(三十日午後)

(同別項李宮相の電報には午後三時卅分新橋發とありて本電報と相違せるも暫く記して後電を俟つ)

雜報

李允用の官紀無視

宮相李允用は官吏服務紀律を破りて公然漢城銀行の副長となり居るのみならず現に湖南鐵道會社の社長として營利事業に關係しつゝあるなり統監府は李の行爲を正當と認めらるゝや否

韓人の大同團結

韓人間の政社及非政社を打つて一團となし排日本主義の下に大同團結を組織せんと策士政客等は○○○の內命を受けて目下奔走中の由なり

●皇后陛下の御返電　皇后陛下御生母一條松壽院御薨去ありしに付韓國皇后より御吊電を發せられたるは既報の如くなるが之に對して我皇后陛下より左の返電を發せられたりと云ふ

懇篤なる吊電に對し深厚なる敬意を表す

●曾禰副統監の參內　曾禰副統監は本日午前十一時卅分歩兵第五十一聯隊附歩兵中佐足立治氏輜重兵少佐小關吉良氏外四名を帶同し昌德宮に參內謁見する筈なり

●皇帝の望哭式　大院王奉移に就き皇帝には皇后を伴はせられ一昨日午後一時四十分曜輝門より出御大院王望哭式を在德堂に於て行はせられ同一時四十七分還宮相成たり

●太皇帝の望哭式　太皇帝及嚴妃は一昨日午後一時四十分出御大院王望哭式を九成軒に於て行はせられ同十一時五十分還宮あらせらる

●李宮相の電報　宮內大臣李允用氏より一昨日宮內大臣署理に宛て左の電報來着す

本日芝離宮に於て天皇陛下より饗を賜はり有栖川宮殿下御臨席あり本大臣は午後三時三十分新橋を發し歸國の途に就く

右上奏を乞ふ

我文武官の叙勳

韓皇には一昨日東宮渡日の際接伴に當りたる人々及艦長以下左の諸氏に叙勳の御沙汰ありたり

日本樞密院議長陸軍大將公爵　山縣有朋
內閣總理大臣　侯爵　西園寺公望
幷特叙大勳位賜金尺大綬章
侍從長侯爵　德大寺實則
特叙大勳賜瑞星大綬章
內務大臣　原　敬
大藏大臣男爵　阪谷芳郎
海軍大臣男爵　齋藤　實
司法大臣　松田正久
文部大臣男爵　牧野伸顯
遞信大臣　山縣伊三郎
農商務大臣　松岡康毅
樞密顧問官子爵　末松謙澄
幷叙大勳賜李花大綬章
式部長伯爵勳一等　戶田氏共
皇后宮大夫伯爵勳一等　香川敬三
內藏頭子爵勳一等　渡邊千秋
幷特陞叙大勳賜李花大綬章
特賜大極章
式部官外事課長勳一等　山內勝明
特叙勳二等侍醫局長　醫學博士　岡　玄卿
特叙勳二等海軍大佐　財部　彪
同　內匠頭伏見宮別當　馬場三郎
同　東宮主事　桂　潜太郎
特陞叙勳二等海軍大佐勳三等　大澤喜七郎
同上大膳亮主獵官男爵勳三等　萬里小路正秀
(未完)

●法部分課規定　近々發表せらる可き法部分課規定の內容を聞くに大臣官房を秘書、文書、職員(人事を司る)會計、統計の五課となし民事、刑事の兩局には分課を設けず而して課長は秘書課のみ韓人にして他の四課は何れも日本人書記官或は事務官を以て之に充つる筈なり

熊谷民長の盡力

韓美電車値上問題は熊谷民長の內地旅行中其儘となりありしが民長は歸來匆々一昨日各新聞の代表者を民團役所に招き値上問題に付協議せられたる由なり

鐵道賃金と京城會議所

京城日本人商業會議所にては鐵道賃金引上に付當局の意向を各會議所に通牒すると共に之に對する意見を求めつゝありしが去る廿九日協議會を開會左の意味の請願書を其筋に提出することに決し尙ほ各會議所にも同樣提出する樣通牒することに決せり

一、京仁間の往復切符は三日間有効期限を與ふること
二、京釜京義其他往復頻繁なる近距離の區間は京仁間同樣往復割引切符を發賣すること

●仁川會議所の交涉　仁川商業會議所に於ては今回の汽車賃値上問題に就き過般來種々審議中なりしが愈々昨日萩谷書記長をして反對交涉を開始せしめたり

直輸送と京城會議所

京城日本人商業會議所にては南大門稅關開設と共に保稅貨物直輸送に付大阪商船會社等に向て再三勸誘を爲したる結果該商船會社にては客年十月頃より直輸送を開始し來りしが噸以下の斤扱貨物に至りては未だ實行の運びに至らず今回是が實行に付二月一日大阪商船會社仁川支店長及慶田組主任等京城日本人商業會議所に集合協議する筈なりと云ふ

●仁川民團臨時會　仁川居留民團の臨時民會は二月五日を以て開會することに內定せりと云ふ

東洋火災の認可に就き(最初の計畫破る)

始め秋田氏を筆頭として日韓人數名連署して東洋火災の營業認可を韓國農商工部へ出願せしに岡農商工部次官は出願人等の身元及び財產等の取調を爲さず直ちに認可の手續を爲し形式上農相署理趙重應の調印を取り統監府に向て承認を請ひしところ統監府にては保險取締法の存せざる韓國に於て保險業を營ましむるは甚だ危險なりとして承認を拒みたるを以て岡次官は無止出願人等をして願書を撤回せしめ後更に願書中より韓人の名義を削り純然たる日本法律の下に於ける日本人の事業として統監府へ出願せしめ亦統監府にては或條件(會社にとりて不利益なる)を附し去る廿七日認可を與へたる次第なりと云ふ

東洋火災と假約取消

秋田氏等の勸誘默止し難く一旦東洋火災の大株主とならんことを假約せられたる京城の某々有力者は所感ありて前約を取消されたりと云ふ

東洋火災と各銀行

各銀行の態度によりて東洋火災の運命は決せらるゝ次第なるが記者の聞合せし處によれば第一銀行を始め各銀行にては只に東洋火災の株金拂込に要する貸出を爲さゞるのみならず東洋火災の株を擔保として認めざる由なり

教科書と學部當局の辨解

學部編纂の普通學校用教科書の印刷製本を東京書肆に請負はしめたる事に就き我社が掲げたる記事に對し學部當局者の辯解する處によれば學部は全國に普通學校を設立し初等普通教育の振興を圖らんとして先づ教授上缺く可らざる教科書を編纂するため卅九年五月文部省より學力經驗に富める三土氏を聘して國語讀本日語讀本修身書漢文讀本圖畫臨本の五教科書の編纂に着手し同年九月より開校する各道觀察府所在地の普通學校及び京城內の十校に使用せしむるため脫稿したる一二學年用の一部は度支部印刷局に託し一部は京城の印刷業者に製本せしめたるも其の費用多額を要し且つ製本印刷ともに內地製に比し遙かに劣等なりしが事急を要するを以て已むを得ず九月より之を使用せしめ爾來文部省に託して調査を遂げ一方韓國印刷業者に交涉したる結果日本に於て製本するの經濟上得策なるを認め一昨年十二月俵次官(當時囑託)三土書記官上京の際文部省と打合の上東京市に於ける書肆にして工場を有するものを指名し各教科書別々に札せしめたるに、日語讀本は大倉書店國語讀本は大日本圖書印刷會社圖畫臨本は國光社修身書は三省堂漢文讀本は博文館が最も低價なりしにより三ケ年間の請負契約を結び先づ各五千部宛の製本を命じたるなり而して三四學年用教科書は昨年中に編纂を終り之が印刷製本に就ても種々調査をなせしに韓國に於て既に設備の完全せる印刷所一二無きにしも非ずと雖も價格の點に於て到底內地に比す可くも非ず殊に一二學年用を製本せしめたる東京書肆をして引續き三四學年用を製本せしむるは甚だ便宜なるにより前述の各書肆に交涉し一昨年の契約と同一の價格を以て請負はしむる事に決定し過日三土書記官は之が印刷製本の訂正監督のため原稿を携へて上京したるなり尙漢文入門のみは內地の製本費に運賃を加算したる價格を以て試みに日韓圖書印刷會社をして印刷製本せしむる事とし既に同社と契約したる次第なりと云ふ

●賊魁銃殺の詳報　曩に群山電報によりて報導し置きたる賊魁銃殺の詳報を聞くに此の賊魁は九峯山と稱し年齡廿七歲にして其父は火賊の巨魁として有名なる者たりしが二年前「咸悅郡自將軍」と稱する郡設の自衛團體のために逮捕せられ護送の途中逃走を企て河中に陷りて溺死せしを以て九峰山は咸悅郡民を恨み父の仇敵なりと稱し各地の惡漢を糾合して自ら巨魁となり屢々郡內に侵入して强盜を働き郡民は安眠する能はざる狀況なりしが昨年に至り黨數百餘名を率ひて暴徒に加はり全羅北道忠淸南道の各地を徘徊し巧みに逮捕を免れ居りたるものにして本月廿二日咸悅駐在所巡査は同人が龍安郡南面月三陽里に潛伏せるを探知して巡檢二名と共に之が逮捕に向ひたるに果して彼は同類二名と一民家に宿泊し居りしを以て同宿者二名は直ちに逮捕したるも彼は逃走し數丁にして巡査の追跡する所となり頑强に抵抗し巡査の携帶せる銃器を奪はんとするを以て巡査は止むを得ず之れを銃殺したるなりと云ふ

●奉化郡の暴徒　奉化郡內に賊徒徘徊の情報を得たる奉化駐在所巡査五名は乃城守備兵四名と共に偵察のため十九日同地に向て出發し廿日午前八時同郡才山面上新置に於て八名の賊徒に遭遇し其の三名を殪し二名に負傷せしむ又同地を距る約一里日月山の北麓黃谷里に約四十名の集團あるを偵知し之を火擊して其十一名を殪し北方に潰走せしめ銃器其他雜品多數を鹵獲せり此戰鬪中巡査鄭相裕は賊の一名家屋の一室を固守して盛んに狙擊し我隊の行動に大なる障害を及ぼすものあるを見るや挺身該家の裏口より突入し彼の將さに發射せんとする瞬間に之を斬殺し又追擊の際峻坂に敵を追ひ詰め其の一名を斬殺する等極めて勇敢なる行動をなせり

●光州方面の賊徒　光州守備隊長吉田少佐の報告によれば大隊は豫定の通り行動し二十七儀門(長城の西南四里)にて今村縱隊の賊徒四十に遭遇し其二を斃し二を捕虜とせり又二十八日は甲山(靈光の東南三里)にして古賀隊は賊徒六十に遭遇し其五を殪し長谷川隊之を靈光の南方に追擊して四散せしむ咸平附近には賊徒に加擔したるもの多く目下不穩の情況にあり

●安義の暴徒　全州警察署長の一行は廿七日午後六時半茂朱郡安義に到着の際東方約一里の山中に銃聲の頻りなるを聞き急行したるに龍潭巡査駐在所員二名匪徒に包圍せられ奮戰中なるに會し直ちに應援して約卅分間戰鬪の後匪徒は夜暗を利用し東方山嶺を越へて潰走せり匪徒の死一名負傷五名我に死傷なし

●賊の歸順　最近の報告によれば淸州警察分署管內に賊の歸順者七名海州警察署管內に同二名あり何れも前非を悔悟せる狀あるを以て監視に付せらる

沿岸航路船使用石炭無稅輸入

韓國沿岸航路に使用する石炭は自己の所有船若しくは借入船の船用に供するものに限り無稅に取扱るゝものにして倘借入便宜上一時稅關長の特許を得て陸揚藏置することを得るも假令へば船用の目的を以て輸入し且つ船用に供せらるゝものと雖も賣却讓渡の場合は課稅せらると云ふ

無煙炭と海軍

平壤無煙炭の品質良好にして且つ多量に產出することは世人の知れる所なるが目下海軍省の德山煉炭所產の分は品質不良且つ產額小なるを以て海軍當局にても好無煙炭を得んとの希望あり種々調査の結果平壤產の炭に注意し先頃既に五百餘噸を注文し且つは海軍專問技師の出張して實地に調査せるあり試驗の結果愈々海軍御用と決定せる曉には煉炭所の設置もあるべく又現今發掘の規模を變じて一大計畫を立つるに至るべく頗る有望にして平壤は之れが爲めに繁榮を加ふるに至るべしと云ふ

一覽拂手形の停止

義州龍岩浦及新義州郵便局に於て客年十二月廿二日より郵便爲替又は貯金の受入に正金銀行一覽拂手形(銀票)を額面にて兌換券又は第一銀行一覽と同一に取扱ひたる結果利に敏き者は安東縣より該手形を輸入して之を郵便局に拂ひ込み其差金を利したるものあり當時年末に際し郵便局に於ては民間金融の關係上該手形の相場により步合を換算して取扱をなすの煩なからしめんが爲めに如此取扱をなしたりしが此事一般人の知る所となるや金銀相場の差額によりて利益せんとするもの續々郵便局替の取組をなし新義州郵便局取扱のみにも其額總計約六萬圓の多きに達したるにより之を繼續するに於ては經濟界に不尠ざる影響を及すの虞ありたれば本月廿五日限り斷然停止したりと云ふ尙當時安東縣に於ける銀相場は下落して金貨と一割强の差步を生し居れりと云ふ

仁川の輸出入額

昨年中仁川稅關を通過したる輸出入品の總額は二千五百六十五萬七千五百四十一圓にして昨年より九百十三萬六千〇十八圓增加し居れるが今兩年の輸出入額を國別にすれば左の如し

		四十年	三十九年
日本	輸出	二、七七九、二二九	一、六六七、七三八
	輸入	二、一九二、二二四	八、四六七、九八〇
支那	輸出	二、一二四、四九三	五八二、三六二
	輸入	三、七七〇、八四八	三、五五〇、七四六
露國	輸出	三、五五〇	一三五、八〇四
	輸入	二四、三五六	五〇〇
英國	輸出	九六八	—
	輸入	三、八八一、二〇三	三、二四六
米國	輸出	二、一七七	二二五
	輸入	二、四五六、七九二	二、一一三、〇三三
其他	輸出	四、九六六	四、八六六
	輸入	二六、七九五	二六、七九五

●郵船支店扱貨物數　郵船會社仁川支店にて昨一月中に取扱ひたる輸入貨物噸數は七百十二噸にして其の個數は七千三百〇五個なりしが之れを昨年の一月よりは約七百噸減少せりと今其の重なる輸出港及其の個噸數を示さば左の如し

東京	一、五七一個	二一九噸
シンガポール	一、四七六	一四
大阪	一、二五六	二一九
門司	一、一二七	四五
四日市	五二七	七六
アントワープ	四一二	二八
名古屋	二三七	一九
ロンドン	二五一	一三

●大阪朝鮮貿易組合總會　二十六日午後岸松館に開會、輸出貨物檢量事務開始と共に經費の擴張を要し卽ち四十年度追加豫算及び四十一年度歲出入豫算は原案通り可決し役員十五名の選擧を行ひたり不日正副組長の互選ある筈

●電信線の故障　一昨夜十二時過より釜山仁川間、奉天釜山間、光化門釜山間の電線に故障を生じ以上三線は互に混線するを以て仁川郵便局に於て仁川釜山間の電報は京城にて臨時中繼をなすことゝしたり因に電線故障の原因は不明なるも多分降雪の爲めならんと云ふ

●教育倶樂部例會　京城教育倶樂部にては二十九日午後愛國婦人會事務所に於て第二回例會を催したり席上綱島牧師、高瀨副理事官、菊池謙讓三氏の講演あり了りて薩摩琵琶、尺八等の餘興あり各雜談に移り頗る盛會なりしといふ

●家屋下賜　韓皇には韓國孤兒院が院兒の增加せし爲め家屋の狹隘を告げたるを以て嚴冬盛暑の候を思召され同院に對し龍洞宮を下賜されたりと云ふ

●青年會の演說會　基督教青年會は廿八日午後八時典洞青年會場に於て辨士安國善は根本的文明なる演說を試み耶蘇教を信奉せざれば根本的文明に進む能はずと云ひ聽衆は八十餘名にして九時閉會せり

雜誌朝鮮の發刊披露

當地の日韓書房が彼の太陽と匹敵すべき月刊雜誌朝鮮を發刊する由は既記の如くなるが右披露として來る三日花月に於て盛大なる宴會を催すとの事なり因に日韓書房主森山氏が雜誌朝鮮を發刊せらるゝは自家の業務を以て韓國經營に貢獻せんとする趣意に出てたるなりと云ふ

●觀測所長の出張　仁川觀測所長和田雄次氏は御用有之淸國出張を命せられたり

●統監府書記官任命　沖繩縣警視大塚常三郎氏は統監府書記官高等官七等に敍任

●三島電信係長の歸任　三島仁川郵便電信係長は歸朝中なりしが昨夜歸任せり

●特赦員數　昨年の特赦されたる各裁判所の罪囚は其都度記せし如くにして最早其特赦も終結せしが其總數は笞刑十一、禁獄四百八、役刑七百二十六、流刑百二十、死刑七、合計千二百七十二名なりしと云ふ

●韓官任免

任印刷局長叙奏任官　從二品　金榮漢
依願免本官　洪原郡守　岩九鶴
正三品　李象吉
九品　吳臺煥
任印刷局技師叙奏任官　俞致卣
任建築所事務官叙奏任官　六品　朴正銑
任建築所技師叙奏任官　九品　趙漢吉
依願免本官奎章閣直閣　張吉相
任農商工部山林局長叙奏任官一等　正三品　崔相敦
任財務部署財務官叙奏任官四等
度支部主事　本間九介
任農商工部水產局長叙奏任官一等　六品　鄭鎬
依願免本官奎章閣直閣　鄭萬朝

●理事廳警部の昇給　十三日附を以て理事廳警部二十一名昇給せり

●三十日參內者　昌德宮計五十二人內婦人八十七人重なるは宮內府大臣署理閔內藏主殿院李議濟承候官尹澤榮承候官尹德榮警視副監具然壽侍從院副卿李會九承寧府侍從洪運杓同金…官計百二十一人內婦人六十二人重なるは承寧府總管趙民熙同副總管朴齊斌同侍從長金春熙同掌禮金相昱侍從院侍從金永甲同李甲承侍從武官鄭熙鳳等なり

公人私人

▲三浦義深(海軍少佐)三日月旅館へ
▲竹內巻太郎(水原副理事官)巳城館へ
▲佐藤?(工學士)浦尾旅館へ
▲松崎三次郎(辯護士)同上
▲伊藤祐?(平壤財務官)九州旅館へ
▲三上文?(陸軍軍醫)旭旅館へ

●韓官任免
任印刷局長敍奏任官 從二品 俞箕濬
依願免本官 洪原郡守 岩九鶴
正三品 李象吉
任印刷局技師敍奏任官 九品 吳壽煥
俞致白
任建築所事務官敍奏任官 六品 朴正鉉
任建築所技師敍奏任官 九品 趙漢吉
依願免本官奎章閣直閣 張吉相
任農商工部山林局用敍奏任官一等 正三品 崔相敦
任財務部署財務官敍奏任官四等 度支部主事 本間九介
任農商工部水産局長敍奏任官一等 六品 鄭鎮弘
依願免本官奎章閣直閣 鄭萬朝

●理事廳警部の昇給 十三日附を以て理事廳警部二十一名昇給せり

●三十日參內者 昌德宮計五十二人內婦人十七人重なるは宮內府大臣署理閣內主殿院李議濟承候官尹澤榮承候官尹德榮掌禮副監具然壽侍從院副卿李會九承寧府侍從洪運杓同金德鎭通計百十一人內婦人六十二人重なるは承寧府總管趙民熙同副總管朴齊斌同侍從長俞森熙同掌禮金相昱侍從院侍從金永甲同李甲承侍從武官鄭熙鳳等なり

▲公人私人
▲三浦彌深（海軍少佐）三日月旅館へ
▲竹內鎔太郎（水原副理事官）巴城館へ
▲佐藤盛雄（工學士）濟尾旅館へ
▲松崎三次郎（辯護士）同上
▲伊藤祐徳（平壤財務官）九州旅館へ
▲三上文藏（陸軍軍醫）旭旅館へ

予の見たる仁川紳士 月日三十行 隱法士

藤井濟太郎君

藤井濟太郎、藤井濟太郎、此の名を聞いて仁川紳士の中に此君のあるのを知らぬものもあるであらう、世に紳士と言はるゝもの多くは名利に馳られて人の前に立ちたがるものだ、豈紳士のみならず片々たる二才、又此弊あるを認む、藤井君は實に此點に於て予の意を得たる好個の紳士である、君は往時芝福澤の義塾に學び、學を卒へて福山紡績の專務取締役となり當時紡績界に於ては若手の敏腕家として其名を恣にしたかくて君は敏腕を揮ふ事數年將に成功の域に近からんとして敢なくも失敗した、そは外でもない、過ぎたるは及ばざるが如しで君は餘りに其敏腕を無遠慮に思ひ切つて揮ひ廻はしたので、俗に云ふ遣り過ぎた爲めであるのだ、次いで君は韓國の紡績界に着目し一昨年渡仁し、海岸通の目下の所に店舖を開いて紡績の卸賣を開始したが現今仁川に於ける紡績商中君の右に出づるものがあるまい、即ち君は近々一兩年にして既に一部の成功を遂げて居るのである、而して君は常に知人に語つて余の晩成は韓國の紡績王たるにありといつて居る、是れを以つて見ても君は如何なる人であるかゞ判るだらう君は此考へを以て常に東西の新聞雜誌（殊に經濟に關するもの）を通讀して居る、午前中は一切商業取引に從事し午後は讀書に耽り玉突に夜を更かすのを以て殆んど日課として居るが又淨瑠璃は思ひの外上手で先づ仁川の天狗連中上の部であらう、斯の如く君は專ら外に交るを好まず專意潛勢力を蓄ふるに努めて居るが日一日と成功に向ひつゝある、デ予は近々幾年の後仁川の花形役者として打つて出づるものがありとすれば君の如きは確かに其一人である事を豫言して憚らぬ、只憂ふべきは女難の相ある事だ、君は眞正の商人である、世の所謂商人なるものは少々成功すると世に出しやばりたがるものであるが君は決して此風が見へぬ、君は常に謙讓を旨として一ッでも年の上の人や、先輩の前では苟も潛越の振舞はせぬのである、此點に於ては普通仁川紳士の眞似の出來ぬ所である、而して君は實に敏捷なる商人である。

秋月菊の傳 其六 紫生

平日來ること稀らなる並木、現に己れの口よりして其來診を斷りたる醫師橋本の兩人に、韓人迄が病む妻の枕邊近く額を鳩め居るに見ても一方ならぬ變事のありしとは覺らるゝ此の場の有樣をも心に留めず怪しの女を伴いて其まゝ一言の挨拶さへもなく己が部屋に引籠りたる無禮の擧動に然なきだに彼れが行ひの正しからざるに面白からず思ひ居たる並木は突つかけ來りし肝癪を支へかねたるもイヤ待て言ふには何時でも言へると思ひ直して言葉穩かに、福田さん實は先刻から此處に居る三人共貴君の歸りを待ち兼ねて居たのだが到底今日中は覺束ないと思つて居た貴君が歸つて來られたとは願つてもない仕合せ、兎に角一寸此處へ來て此の有樣を見て下され、折角貴君が面白可笑しく宜い御機嫌で居なさるのに呼び立て申すとは餘り目先きの見ゑない樣であれど、浮世の義理だ、死んで了つた者には敵同志でさへ禮儀のあるもの、是れは現在貴君が連れ添ふた女房のこと死貌になりと優しい顏を見せて遣るのが切めてもの罪滅し他人の私が酷い世話と叱らるゝかは知らないけれど初めて會つた其時から及ばずながら力にも成りつ成られつ爲て來た交情なれば煩雜ながら切めては貴君に獸物にも劣つた奴との惡名を被せたくないと思ふ老婆心から言ふことゆゑ惡く思はずツイ一寸此所まで起きて來て下されと極めて穩に言ふ裡にも何處やら稜ある言葉の端々、萬一此れが並木ならで他人の口より出でたるなりせば只其儘には過すまじき市作も着釜以來萬事萬端何かの世話になり勝ちの並木の言葉なるのみならず強いて駭然ともせざる態は裝へど穩かならぬ其場の樣子に萬一先刻蹴付けたる夫れが因に其のまゝになりたるものにはあらざるかと思はざるにあらざるものから道きる並木の言葉を善き機會に秘密を女に耳打ちして己れが部屋は出でたるものゝ弱身を見せじと肩肱張り故意と醉ひ痴れたる面地しつゝ、此れは此れは並木さん此頃は不圖ぞ此の家に御入來なきに今日は又何を思ひ出しての御入來にて又何かれ腹立ちにて先刻からの御言葉にや夫れのみならずれ醫師樣迄迄も駄目ぢやと諦めた此の市作の山の神の枕邊にはれ在でなさる、夫れは扨置きコリヤヤイ、ヨボたち二人樣にれ茶など進げる用意をせぬかと白眼上げたる勢を付景氣とは知らぬヨボのイと其座を立たんとせしを並木は暫しと押し止め據を叩きし腕を枕にチリリと膝を其方に押し向け市作殿夫れはれ前本氣で言はしやる文句かね、と彼れ市作が我れにもあらぬ面を見上げてホロリと零せし一雫は實に誠ある涙なりけり。

●奇拔なる新婚旅行 此程地理歷史實地研究の目的を以て英領印度の內地に新婚旅行を企てたる新夫婦あり此奇拔なる花嫁はエレン、ウエード、トムソンと呼ぶ紐育の一少女にして新郎は上海にあり地理學者として人に知られたる學士會員アレキサンダー、ドリユー氏なるが彼等が互に言ひ交はしたる約束は先づ兩人上海に落合うて其處に結婚式を擧げそれより緬甸を經て印度に入り深く猛獸毒蛇の棲息する內地に踏み入りて此處に愈々七百哩餘の探險旅行を試み其間數十年前の名所舊蹟を尋ねソロモン大王の榮華の跡をも究めて若し出來得べくんば大王の所謂金鑛のありし處などをも探りわてんとの事なる由、新婚は既に舊臘十七日亞米利加丸にて桑港を出發し上海に向へりと云ふ

●仁川の出產死亡數 仁川に於ける昨年中の出生者は二百六十九人にして死亡者總數三百八十五人なり之れを一昨年に比すれば出生に於て六十七名を減少せるに死亡は反つて三十六名の增加を示せり今之れを分類對照すれば左の如し

	四十年	三十九年
行路死亡	九	一二
傳染死亡	三五	一八
通常死亡	三四一	三一九
出生	二六九	三三六

●紀念寫眞帖發刊 朝鮮タイムス社に於て昨冬來豫約募集中なりし皇太子殿下御渡韓紀念寫眞帖は這回製本を了はり愈々發刊せられたるが其の表裝の優美にして印刷の鮮明なる見る者をして一見當時の光景を眼前に髣髴せしむ殊に一葉每に緻密なる說明を加ふるもの正に好個の紀念品として永く保存すべきものなり記者は斯る好紀念品の普通利益を目的とする商賣人の手に成らず我が同業者に於て出版せられたるを喜ぶものなり（發刊所仁川朝鮮タイムス社定價一部二圓五十錢）

●困つた亭主 れ互ひ朝鮮三界迄渡り來る身の仕誼によりては夫婦共稼ぎ迄もせざるべからざるに這は又根ツから量見の違つた奴なり所は米倉町一丁目の名は遠藤亘とかいふ身には相當の教育を受け居るにも拘らず元來嫉妬深き性質にて他より歸りては每時罪なき妻を打ち毆きするにぞ聞々近所よりの厄介を受け居れるがつひ二三日前も何處で飲んで來りしものか先生へべレケに醉つて家に歸り來り呂律の物らぬ舌にて女房に管を卷き果ては例に依つて無理な詮義をなしたれの留守中に必ず手前の好きな男を引き摺り込んだに違ひなく第一向ふの明き家の戶が今日に限りて開き居るは不思議なりと立腹し女房が懇々と言譯するをも耳にせず拳を固めて散々毆打するにぞ又々近所のものが來りて仲裁せしとかなるが扨ても困つた悋氣家なりと投書のまゝを

●二千圓持つて來い 此程のことなりとか北署管內津寬に住居する孔寶慶なる者の家に紙幣一千圓を去る廿九日北部紅峴徐內齋の宅の塀校まで持ち來れとの書を投込みしものありしかば同家にては直ちに此旨を北部警察署に届出でたるを以て同署にては刑事を派し同所附近を警戒せしも遂に之を捕ふるを得ざりしとは何處までも韓國式ならずや

●昨日の雪 兩三日來寒中とも覺へぬ暖氣なりしが一昨日朝より曇天となり空は何となく雪氣を催したりしが午後一時頃より果して小糠の如き雪降り出で夜に入りて歇まざりしが昨朝に至り戶を開くれば殆んど七寸餘も積り四方銀世界と變じ夜來の雪は未だに歇まず漸く午前十時頃に至りて降り歇み午後二時頃より晴天となりしも積雪融解して道路は忽ち惡路となり通行者の困難は云ふ計りなかりし又此雪景を見んとて和城臺に杖を曳きし風流人もありしが兎に角兩三年來見ざりし大雪なりし

株式會社漢湖農工銀行
第二期 決算報告書 自光武十一年七月至隆熙元年十二月
損益勘定
一金六萬一千三百二十二圓二十八錢八厘 當期總益金
一金四萬五千二百四十三圓四十八錢三厘 當期總損金
差引金一萬六千七十八圓八十錢五厘 當期純益金
此の配當計算左の如し
金五千圓 積立金
金一千五百五十圓 配當積立金
金五千八百九十壹圓二十五錢 配當金（年一割五分）
金壹千參百參拾圓 賞與金
金貳千參百七圓五拾五錢五厘 後期繰越金

對借對照表

資產之部

科目	金額
拂納未完資本金	二三五、六五〇・〇〇〇
諸貸金	三〇四、五一二・〇〇〇
割引手形	四一二、六一三・四一〇
約束手形	四〇〇・〇〇〇
當座任置金	四九、一九二・一三〇
公債券	五五、〇二〇・〇〇〇
株券	二、五〇〇・〇〇〇
他店へ貸（一〇ヶ所）	一四、三〇五・八六〇
地所	一七、三五一・三四〇
建物	一一、五一六・三二〇
什器	五、一六九・二三〇
抵當物流込物件	七〇〇・〇〇〇
建築費假出	四、六三四・四〇〇
金銀有高	一〇三、四五二・三七〇
收入印紙	一、九〇〇・一五〇
手形用紙	八七・五〇〇
合計	一、二一九、〇〇四・七一〇

負債之部

科目	金額
政府貸下金	三二九、二〇〇・〇〇〇
貨幣整理貸下金	三八、〇〇〇・〇〇〇
農工債券發行高	一五〇、〇〇〇・〇〇〇
資本金	四〇〇、〇〇〇・〇〇〇
積立金	三、五〇〇・〇〇〇
配當積立金	九五〇・〇〇〇
支拂未完配當金	三一七・九五〇
諸拂置金	一六七、一七八・七一五
再割引手形	四七、四〇〇・〇〇〇
約束手形	四〇、〇〇〇・〇〇〇
他店より借（一九ヶ所）	二六、三七九・二四〇
當期純益金	一六、〇七八・八〇五
合計	一、二一九、〇〇四・七一〇

右之通候也
隆熙二年一月廿七日
株式會社漢湖農工銀行
銀行長理事 白完爀
理事 洪肯變
同 李鴻謨
同 季健爀
同 韓敬會
同 鄭雲祥
同 孫海鵬
同 陰在穩
同 李顯周
同 徐基文
同 朴東煥
同 尹敬重
支配人 久能省三
前記各項の調査を爲し其の正確なることを保證す
監事 尹晶錫
同 白寅基
同 徐璟澤
同 金載勤
同 李淵夏

來る四月一日より當局全線大貨物及旅客賃金左の通り實施致候

●大貨物賃金

種類品名	斤扱大貨物	噸扱大貨物	動物 牛、馬	動物 犢、駒、羊、豚
運賃計算上の單位	百斤一哩	一噸一哩	一頭一哩	一頭一哩
運賃率 二十哩まで	九厘	五錢	十錢	五錢
廿一哩以上五十哩迄	四厘	四錢	八錢	四錢
五十一哩以上百哩迄	四厘	三錢	六錢	三錢
百一哩以上二百哩迄	二厘	二錢	四錢	二錢
二百一哩以上	一厘	一錢	二錢	一錢
最低運賃	九錢	五十錢	四圓	四圓
備考			四頭以下は四頭分を取る	八頭以下は八頭分を取る

但し計算は累算法に依る

●旅客賃金

五十哩迄 三等一人一哩に付 三錢
五十一哩以上百哩迄 同 二錢五厘
百一哩以上二百哩迄 同 二錢
二百一哩以上三百哩迄 同 一錢五厘
三百哩以上 同 一錢
但し計算は累算法に依る

二等賃金 三等賃金の七割五分增
一等賃金 同 十五割增

●哩程の通算

從來京釜、京義及馬山線共相互間直通輸送の場合に於ける運賃は小手荷物の外總て各線各別の計算としたるも四月一日よりは發驛より着驛まで哩程を通算し所定の賃率を乘ず

●日本內地との連帶運輸

四月一日より京義及馬山線各驛と帝國鐵道廳東海道、北陸、關西、山陽及九州線の主要驛相互間連帶運輸の便を開き直通輸送を爲すべき豫定にて目下其筋へ交涉中に屬し右開始の曉には以上哩程通算法に依る賃金の低減と共に北韓方面の交通に一大新生面を開くに至るべし

明治四十一年一月

統監府鐵道管理局

京仁間往復割引

來る四月一日以降に於ける當局線旅客賃金實施と同時に京、龍、仁間往復旅客の御便利を圖り割引往復乘車劵を發賣致し候

◎發賣區間
南大門 西大門 龍山 と 仁川 （峴 仮） 驛相互間

●割引往復賃金

一等 三圓 二等 二圓 三等 一圓

本乘車劵は往路劵面着驛中の何れに下車し又は歸路何れの驛より乘車せらるゝも旅客の御隨意に有之候

明治四十一年一月

統監府鐵道管理局運輸部 電話八五一（營業課）

藥

處方調劑 藥品賣藥 衛生材料

龍山櫻町 藥劑師 川瀨一五郎 商號 開壽堂藥房

新らしく生れたる韓國唯一の大雜誌

月刊 朝鮮

初號二月一日發行 定價金廿錢 郵稅一錢

執筆者は前大東新聞社長菊池長風氏及び京城居留民團囑托釋尾旭邦の二氏なり菊池長風氏は漢城の活歷史にして又漢城獨步の文豪なり政論家なり評論家なることは既に定評あり、釋尾旭邦氏は哲學者にして忠實なる韓半島の研究者なり、又熱心なる帝國主義と民權論者なり社會改造論者なり、此の二氏の外漢城の顯官名士論客文士數十名を特別寄書家として韓半島に於ける有ゆる方面を最も嶄新に奇拔に正確に紹介し論議を諷詠する唯一の大雜誌なり然して之が發行者たる我日韓書房は多年顧客の厚誼に酬ひんが爲め商賣氣を離れて聊か新保護國の文運に貢獻せんが爲めなり、此の朝鮮が所謂三號雜誌と全然其の趣きを異にするは敢て說明を要せざる處なるべし、猶は各方面の通信寄書を歡迎す

發兌元 京城本町二丁目 電一四五 振替口座九〇五九番 日韓書房

日韓印刷株式會社

營業科目
活版活字鑄造
石版銅版
コロタイプ
彫刻諸印刷
諸帳簿
製本裝釘

本社 京城明治町三丁目（電話三二三番）

東京出張所 東京市京橋區南鍋町二丁目十番地（電話新橋三九六二番）

再版 日韓會話辭典

紙數四百九十二頁 並製特價金二圓 郵送料金十錢

增補三版 獨習速成 日韓會話

定價金三十錢 郵稅金二錢

發兌元 京城大漢門前 盛文堂 電話四百廿六番

營業科目

土地家屋鑛山山林賣買貸借ノ仲介
土地家屋鑛山山林測量製圖應依賴
灌漑排水事業設計應依賴
土地整理立丈量應依賴
鑛山未墾地出願代辨
土地家屋賣買證明願手續代辨
外國旅劵出願代辨
新聞廣告取次
電話賣買取次
韓國に關する著書雜誌閱覽
韓國に關する非賣出版書閱覽
韓國に關する本社調查書類閱覽
商品依託特約代理店ノ仲介

▲弊社は誠實秘密且敏速に業務を營む
●宅地及韓人家屋の賣物あり
●商店向其他の貸家あり
●鑛山の賣物あり
●耕地未耕地の賣物あり
▲弊社は各方面に涉り各事項を調查す

京城仲介社

本社 京城永樂町一丁目八番戶假事務所

支社

東京	東京麴町區富士見町	伊藤靈太郞
大阪	大阪尼ケ崎字宮町	由比昌太郞
仁川	仁川新町一丁目	遠藤章平
釜山	釜山入江町一丁目	加納佐一
木浦	木浦山手通三丁目	谷垣嘉市
鎮南浦	鎮南浦西二丁目	古田稻甫
開城	開城西部	今福又三
水原	水原南門內	川口直三郞
元山	元山居留地	菅鶴平
鏡城	鏡城北門內	菅平支店
平壤	平壤大和町	佐久間賢次郞
大邱	大邱東門外	稻本新臣
龍山	龍山元町	吉岡一作

實用新案 空氣呼鈴

此の呼鈴は彼電氣呼鈴の如く藥品を要せざれば破損の患ひ無く道線は鉛管を用ふるものなれば地中水中に論なく布設し得且距離は能く百二十間の遠きに達すされは官衙銀行會社旅館料理店或は本宅離亭の間等に使用して誠に經濟至便の文明的要品なり乞ふ陸續御購求あらんことを

諸官署御用達

諸機械 軍刀及 附屬品 諸金物 雜貨類

ターニー商店

京城明治町一丁目 石川義夫

材木薪炭商並ニ鐵道貨物取扱運送業

韓國京義線新幕停車場前

田村保吉

電信略號（マルキ）

極材木、竹類、灰

座敷廻り諸材料特に注意取揃あり

右本年は多額輸入可仕特別廉價販賣仕候間多少に不拘御用命願上候

小森材木部

京城旭町一丁目 電話七四四番 本宅四〇五番

開店御披露

和洋雜貨並に備前物產

足袋・キシヤリ

御小賣商

京城本町六丁目 中塚支店

薪炭 石炭 たろし 小賣

京城長谷川町一丁目 神野商店

統監府御用 各官衙御用

荷物荷造及運搬

伊藤組

本店 本町三丁目（電話七百三十二番）
營業部 曙町（電話四十二番）

伊藤友松

木炭着荷

京城南大門通三丁目

英兄弟商會 電話九四八番

一各種石炭大販賣

大の浦塊炭
豆田塊炭
大辻塊炭

ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候

三池粉炭

鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應し可申候

當社一手販賣炭左之通り

三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物產合名會社

京城出張所（電話二十六番）

仁川出張所（電話六十三番）

代書幷ニ測量製圖 漢城府土地證明手續代辨

日笠義則

京城本町壹丁目理事廳前

訴訟、鑑定、契約起案、諸願屆、登記書類代書、土地家屋賣買、金錢貸借、電話賣買等の周旋

法學士 小川勝平事務所

京城本町一丁目警察署前 電話四十一番

諸願屆、登記書類の代書、土地家屋賣買、金錢貸借の周旋、漢城證明手續、土地家屋及未開墾地測量

岡田錢三郞

旭町一丁目民役所横 取次電話二六八番

法律事務所

岩本英夫

京城本町一丁目 電話六二四番
仁川新町一丁目 電話五二七番（九七番）

一鐵道貨物取扱
一稅關保稅貨物取扱

迅速に確實に叮嚀を主とし御取扱可申候間多少に不拘御用命奉願候

仁川停車場上 小宮山運送店 電話七二六番

京城南大門外一丁目 同支店

誠實と熱心を以て訴訟登記其他諸般の代書依賴に應ず

明治法律學校出身

增本好三郞事務所

京城本町二丁目一番地

日本郵船株式會社

漢船仁川出帆廣告

貨物及船客取扱店

仁川海岸通 郡回漕會 電話三九番

京城南大門通 巴商店 電話三〇六番

●釜山長崎門司神戶行
相模丸 二月十八日 後三時出帆

●群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行
浦汐丸 一月七日 後三時出帆
第一オハロ號 二月二日 後一時出帆
伊勢丸 二月十一日 後三時出帆
上川丸

●大連行
高砂丸 一月廿五日 後一時出帆
營口丸 二月四日 後一時出帆
新潟丸 二月八日 後一時出帆

●大連、芝罘、秦皇島行
相模丸 二月八日 前九時出帆

●釜山出帆 元山行
弘前丸 一月 日

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送迎可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船稅關ノ事